

今週のビルマのニュース
2009年8月14日【0931号】

アウンサンスーチー氏「有罪」 減刑で自宅軟禁へ

・インsein刑務所の特別法廷で開かれていた民主化指導者アウンサンスーチー氏らの裁判で、11日に氏に判決の言い渡しがあり、スーチー氏は有罪とされ禁固3年を宣告された。直後に軍政が減刑を発表し、氏は1年半の自宅軟禁措置となった（各報道）。新憲法に基づく総選挙が来年前半に予定されているが、氏が選挙に直接参加するのは困難となった。

・減刑措置の詳細は次の通り。刑期（3年）の半分を免除、残り半分を執行猶予とする。執行猶予期間（1年半）は自宅に居住し、規則を守り品行方正なら期間満了時に刑を免除する（12日英字国営紙）。

【背景】軍政は5月、突然訪れた米国人男性を家に入れたことを理由に国家防衛法の下でスーチー氏を起訴した。背景には、来年予定の総選挙を前に、国民の支持を集める氏の拘束期間を延長したいという軍政の政治的動機があったとの見方が大勢。

国際社会から懸念の声が相次ぐ EUは制裁を追加

・有罪判決について中曽根外務大臣は談話で「このような判決が出されたことは極めて残念であり（中略）スー・チー女史が置かれている現状は極めて遺憾」と述べた（11日外務省）。「ミャンマーの民主化を支援する議員連盟」も13日に談話を発表し、判決は「民主化に取り組む国内外の期待を大きく裏切るものであり、極めて遺憾」と述べた。

・国連安保理は13日に報道向け声明を出し、有罪判決に「深刻な懸念」を示した。中国やロシアなどの反対のため、より強い議長声明は出せず「非難」といった強い表現も削られた。またEUは軍政に対する追加制裁を発動した（14日読売ほか）。

・このほかにも判決を非難しスーチー氏の即時釈放を求める声明が各国から相次いだ。但し中国やベトナムは、判決は国内問題であると述べ、中でも中国は、国際社会はこれを尊重すべきだという立場を表明した（各国声明、13日AFPほか）。

・スーチー氏と同じノーベル平和賞受賞者や、世界の市民社会団体も多数が声明を発表した。有罪判決を非難し、具体的な対策案として、ビルマで起きているとされる人道に対する罪についての調査委員会の設置と、軍政に対する武器禁輸措置の採択を国連安保理に求める声が高まっている。

米有力議員がビルマを訪問 軍政トップと会談も？

・米議会上院外交委員会のアジア・太平洋小委員会で委員長を務めるウェッブ議員（民主党）が、14日から3日間の日程でビルマを訪問する予定であることが明らかになった。米上院議員がビルマを訪問するのは10年以上ぶり。軍政トップ・タンシュエ將軍とも会談する可能性があり、実現すれば米要人としては初めてとなる（13日AFPほか）。

・ウェッブ議員は米国のアジア政策に大きな影響力を持ち、クリントン国務長官とも親しい。軍政に対する制裁の効果を疑問視していることで知られているため、今回の訪問に特に注目が集まっている。

・ビルマ国内で活動する「全ビルマ僧侶連盟」や「88世代学生グループ」などは11日、ウェッブ議員に公開書簡を出した。その中で、軍政が今訪問を利用し、アウンサンスーチー氏への処遇を含めた軍政の行動をウェッブ議員が支持しているという宣伝をする恐れがあると指摘した。また同議員に対し、軍政幹部だけでなく国民民主連盟（NLD）や少数民族政党とも面会するよう求めた（同書簡）。

シャン州でビルマ軍が軍事作戦 民間人を攻撃

・シャン州中央部で7月末からビルマ軍が軍事作戦を始め、これまでに40近くの村が移転を命じられ、500棟の家屋が焼かれた。多数の住民がビルマ軍兵士に拘束され拷問を受けるなどし、少なくとも3人が殺され、集団で強かんされた女性もいる。家を追われた住民が約1万人おり、多くが今後タイに入ると思われる（13日シャン人権基金ほか）。

ビルマへの政府開発援助（ODA）約束状況など

7月30日 コーカン地区での食糧援助のため、国連世界食糧計画（WFP）に75万ドル

もっと詳しい情報は

きょうのビルマのニュース（平日毎日更新）
<http://www.burmainfo.org/news/today.php?mode=2>

ビルマ情報ネットワーク
<http://www.burmainfo.org>

<p>お問い合わせ ビルマ情報ネットワーク 秋元由紀 yuki@burmainfo.org 080-2006-0165</p>
